

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2202号 2014年03月10日(月曜日)

## 《 surprisingly better than expected 》

就業者数の絶対レベルよりも、「とにもかくにも久しぶりに予想を上回った」ということが重要な先週末の米雇用統計(2月分)でした。ドルは対円などを中心に発表直後は大きく上げ、ニューヨークの株価も一時は大幅高。予想の大勢である「14万9000人」に対して、実際に発表になった非農業部門の就業者数の伸びは17万5000人。昨年末の伸びに比べればまだ低いですが、その前2ヶ月連続して「予想を大きく下回る数字」が続いていただけに、

「やはり寒波が統計を混乱させていた。春の到来とともに米経済は正常化する」

「FRBはQE3の縮小路線を続ける」

「今年1～3月の米GDPは想定レベルより1%減少するが、4～6月は1.2%増加する」

などの観測が強まった。一般に報道されている以上に、隠れたところで2月の米雇用統計は強い。ウォール・ストリート・ジャーナルなどによれば、

「失業して諦めて労働市場から退出する人もいるが、それよりも諦めずに実際に職場を見付けることが出来た失業者の数が2月は過去46ヶ月で初めて多かった」

「正規雇用を望みながらパートタイムの仕事に就いている人などを含む“広義の失業率”が12.6%と、2008年11月以来の低い水準になった」

などの注視すべき動きがあったという。もっとも、労働市場への再参入を目指す人が増えたこともあって家計調査に基づく失業率は6.7%と2月(6.6%)よりも上昇した。また「大幅上方改定」との見方もあったが、当初7万5000人とされていた12月の同就業者数は8万4000人に、当初11万3000人とされた1月就業者数は12万9000人と“小幅な”上方修正にとどまった。昨年12月から今年2月までの就業者数の平均伸びは12万9000人と昨年一年間の月間平均の就業者数の伸び19万4000人を大きく下回っている。

今週もいくつかの重要な米経済統計が発表されるが、先週末発表の米雇用統計が良かったことから、これまでに小売売上高、住宅関連指標、鉱工業生産などに出ていた弱い数字は、

「寒波のせい」として一応片付けることが可能な状況となった。その為、来週の18、19日にイエレン新議長の下での初めて開かれるFOMCは「量的緩和の縮小を継続する」との予想が大勢となった。G20の場でも少し出た「アメリカの金融政策は自分勝手」との批判もかわせそうだし、一番FRBを批判する中銀総裁を持つインドでは、このところ株式市場が世界の主要市場から抜きこんでるような上昇が続いていて、「我々が被害者」とは言えない状況になっている。イエレンの路線継続作戦はしばらく続きそうだ。

FOMCの話が出たので関連した点を挙げると、今週は10、11日に日銀が金融政策決定会合を開く。しかし今週も目立った金融政策の変更はないと見るべきだろう。金融政策の焦点はやはり4月以降だ。筆者は4月の消費増税後に関しても「景気はあまり大きくは失速しない」との感触だが、これはふたを開けてみないと分からない面がある。多分日本の景気に強気な日銀もその見方だろうし、「切り札」を残す方が賢明だと思う。

### 《 worries remain in Ukraine 》

しかし2月の米雇用統計が予想より良かったから「マーケットの不安一掃」か、ということそうではない。先週金曜日のニューヨーク株式市場が同統計を受けて高寄り後にダウ工業株30種平均が一時はマイナス圏に落ちたように（引値は30ドル強高）、「強気一辺倒」にはなりきれなかった。また外国為替市場でもドルが継続的に上値を追うと言う状況ではなかった。それは、「株式市場にある高値警戒感」や「米経済の実態を最終的に確認できるのは3月の経済統計が出始めてからで、まだほぼ一ヶ月の時間が必要」ということ以上に、「ウクライナ情勢の静かな悪化」があるためだ。

ニューヨークの株式市場ではこの一週間ほど、「ウクライナ情勢は懸念したような最悪な事態には発展しない」との見方が大勢だった。クリミア情勢の緊迫化を受けて株価が大きく下げた後ただだに、「米露が決定的に対立」というような事態はないということで一時は安堵感が広がった。しかし実際にはウクライナ情勢はクリミア自治共和国政府が予定し、ロシアがそれを軍隊増派によって支援している「3月16日の住民投票」の接近で「静かに悪化している」というのが当たっている。

ロシアのプーチン政権とクリミア自治共和国政府は2回に亘ってクリミア自治共和国での住民投票を前倒しした。最初は5月26日だった。先に声明を発表したオバマ大統領は、この5月の住民投票を支持している。しかしクリミア自治共和国政府はまず3月30日にその投票日を前倒しし、先週これをさらに2週間前前倒しして「3月16日に実施」と発表した。この二度の前倒しにロシアの意図を見ることが可能だ。それは、「クリミアのロシア編入は、クリミアの住民の希望」ということを早く確定させたいのだ。

その意図が見え見えだからこそ、この週末に欧米の主要国は「3月16日の住民投票は無効、拒否する」との姿勢を明確にしている。この間にクリミア半島に派遣されているロシア軍の数は「増えている」というのがウクライナ政府サイドの見方だ。またクリミア半島ではロシア編入に反対する少数民族タタール人の動きも伝えられるし、クリミア自治共和国

に住むタタール人の家のドアにはあたかも過去においてナチスがユダヤ人の家のドアにしたように、大きな×印が書かれるといった事態も起きている。

またやはりロシア系が多いウクライナ東部のドネツクでは、今のキエフの政府を支持する人々と、ロシア回帰を目指す人々の間で小競り合いが起きているとも伝えられる。「ロシア住民の保護」というロシアの論理を延長すれば、ロシアがクリミア以外のウクライナ南部、東部に容喙する危険性は強く残る。ウクライナ情勢は、「開けてはならないパンドラの箱」を開けてしまった状態になりつつある。

3月16日と言えばこの週末曜日である。欧米諸国が「拒否」の姿勢を明確にしているクリミア自治共和国での住民投票が反対を押し切って実施されるとなれば、アメリカ・EU諸国とロシアの睨み合いのレベルは上昇し、「制裁の応酬、または制裁での脅しの応酬」の展開になる可能性がある。それは「世界的なリスク・オフ」の事態を招く危険性が高い。

先週末の米雇用統計後のマーケットで、ドルが雇用統計を歓迎した上げ一服後に上げ足を止め、ニューヨークの株式市場が一時は下げに転じたのは、主にウクライナを巡る国際情勢急変への懸念が強いことを示唆している。

#### 《 major schedules this week 》

今週もそうした不安定な地合の中でマーケットは展開しよう。今朝のオセアニア市場の外国為替市場の動きを見ると、やはりこうした欧州の情勢の緊迫化を懸念していると思われる「やや円高」の動きもあった。しかしその後は様子見。ドルは先週末のニューヨークの水準より安い。

-----

今週の主な予定は以下の通り。

03月10日（月曜日）	10～12月期 GDP 改定値 1月国際収支 2月貸出・預金動向 2月対外・対内証券売買契約 2月企業倒産 2月景気ウォッチャー調査 金融政策決定会合（～11） ユーロ圏財務相会合（ブリュッセル）
03月11日（火曜日）	オーストラリア2月企業信頼感指数 1月産業機械・環境装置受注額 金融政策決定会合の結果発表 米1月卸売売上高 EU財務相理事会（ブリュッセル）
03月12日（水曜日）	1～3月法人企業景気予測調査

	2月企業物価
	1月第3次産業活動指数
	2月中古車登録台数
	2月消費動向調査
	金融経済月報
	タイ中銀の金融政策委員会
	ユーロ圏1月鉱工業生産
	米2月財政収支
03月13日(木曜日)	1月機械受注
	オーストラリア2月雇用統計
	中国1~2月工業生産高・固定資産投資・小売売上高
	ニュージーランド中銀が政策金利を発表
	米2月輸出入物価指数
	米2月小売売上高
	米新規失業保険申請件数
	米1月企業在庫
03月14日(金曜日)	金融政策決定会合の議事要旨
	株価指数先物・オプション3月物のSQ(特別清算指数)算出
	2月発電電力量
	米2月卸売物価
	米3月ミシガン大学消費者態度指数速報値

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。寒かったが、日差しはすっかり春のそれ。お日様が照っている中で車の中にいると「暑い」という感じがする季節になりつつあります。2月と全く違うのは、陽が長くなったと言うこと。早朝の運動を趣味と一つとし、早朝の番組が週に2本ある身には、「夜明けが早い」というのは助かる。梅から桜、そして桃へと日本の代表的な「花」がバトンタッチされる季節。

-----

そういえば先週、アカデミー主演男優賞をとったマシュー・マコノヒー(44)主演の「ダラス・バイヤーズクラブ」を見ました。最近ハリウッドではやりの「実話ベースの物語」で、1980年代にエイズウイルス(HIV)に感染した実在の男性を描いていた。製薬業界や医療の世界の汚濁を追求。凄いと思ったのは、実際にマシュー・マコノヒーの形相が作品中大きく変化したこと。マコノヒーは20キロ以上減量して役作りに臨んだというのが、それは本当でしょう。

数ヶ月前に「映画を見よう」と思ったら、「何も見るものがない」と思った。そんな時期もありましたが、また「見たい」と思う映画が増えてきた。アカデミー関連で言うと、「ゼロ・グラビティ」より、「それでも夜は明ける」(12 years a slave)は見たいと思う。タイトルは全くの意識ですが、そういえば「遠い夜明け」(Cry Freedom)というのもあった。日本人は「夜明け」のタイトルが好きなんだな、と思いました。

そういえばこの週末に録画しておいたNHKのBS1の「世界のドキュメンタリー」で、「マイケル・ジョンソン アフリカのルーツをたどる旅」を見ましたが、これも印象的なドキュメンタリーでした。なぜアメリカやジャマイカ出身のアフリカ系住民の子孫に運動能力が優れている人間がいるのか、という問題意識。マイケル・ジョンソンその人が、その手の優れた運動選手です。

その彼が「素晴らしい運動能力を持つ自らのルーツ探索をする」という筋立て。実に実証的なドキュメントだった。アフリカ大陸での出身地から港までの過酷で多くの人が倒れた移動、大西洋を渡る奴隷船の中での試練(生存率は良くて5割と言われた)、そして新大陸での厳しい酷使。それら全てに「負けなかった」「それを生き延びた」人々の遺伝子が今のアメリカやジャマイカのアフリカ系住民の運動能力の高さに繋がっているというお話。

悲しい過去、そして皮肉な現実のお話でした。それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》